

郷土館だより

Vol. 15. No.2

1992. 12. 25



市ヶ原廃寺の古瓦

『文徳実録』に「齊衡二年伊豆の国大興寺を以て定額に預け、海印寺別院と為す」とあり、更に「大興寺は孝子大部富賀満国家の為に建つる所なり」とある。

齊衡二年(855)は平安時代の初期にあたり、記述内容は、大(丈)部富賀満という人物が国家隆盛を祈願するために建てた大興寺が、この年に定額寺として官寺に遇せられたというのである。

ところで、市ヶ原(現在の大社町)の法華寺には古代は国分法華寺だったという寺伝が伝えられているという。また、この法華寺境

内から祐泉寺(市ヶ原)を中心とした一帯の発掘調査の結果、ここには平安末期まで存続していたと推定される白鳳期建立の薬師寺式伽藍配置の古寺院が存在していたことが確認された。

以上のようなことを考え合わせると、従来市ヶ原廃寺と称されてきた幻の古寺院が、にわかに現実味を帯びた大興寺という白鳳期寺院となって想像されるだろう。

写真の古瓦は、祐泉寺境内で発見された軒丸瓦と軒平瓦である。奈良・山田寺式単弁蓮華文(軒丸瓦)の、白鳳の薫り高い瓦である。

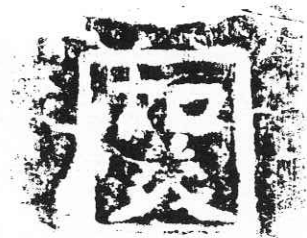
武蔵国分寺跡出土の文字瓦

開催中の企画展「古代瓦展」(～5年1月17日)の展示品は、大部分が駿府博物館(静岡市)所有の徳富コレクション古瓦で占められている。本コレクションは、コレクターの幅広い教養と歴史的視野をベースに、中国・朝鮮古瓦から日本の中世瓦に至るまでの資料を見本的に収集したものである。しかし、そうした比較的浅く広いコレクションの中で文字瓦の収集資料はかなりの割合を占めていて、コレクターが文字瓦に特に関心を寄せていたことがうかがわせるものであった。

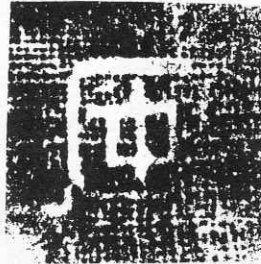
そこで、ここでは、その中の武蔵国分寺跡出土の文字瓦を取り上げ、いくつか紹介しておきたい。



「那」ヘラ書



「加美」押印



「中」押印



「埴」押印



「榛」押印



「父瓦」押印

■武蔵国分寺■

武蔵国分寺は、東京都国分寺市にある。金堂跡、講堂跡が南北にならび、その東南に約200mはなれて塔跡がある。その他、僧房および南大門と推定される地点があり、西方約350mに、国分尼寺跡と推定される遺跡もある。

また、武蔵国分寺は文字瓦がきわめて豊富に出土することで全国的に知られている。

掲載した文字瓦の拓本は、本コレクションの中にあって比較的鮮明で、判読可能なものを選んだものである。文字は武蔵国内の郡や郷を示すもので、国分寺の建立が、武蔵一国の総力をあげて進められたことを物語っている。

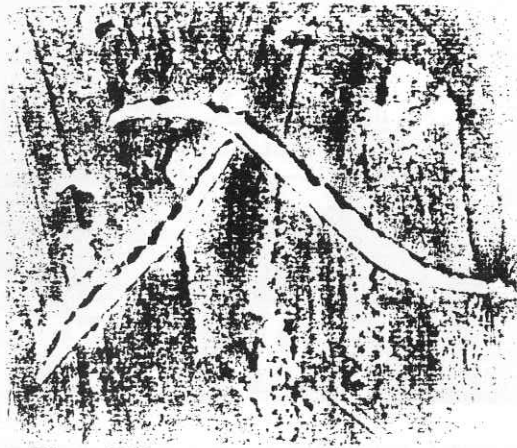
■文字瓦■

文字のある瓦をいう。

銘記法から、「ヘラ書文字」「押印文字」「範面文字」「叩具文字」「指頭文字」「模骨文字」「墨書」「朱書文字」等に分類呼称される。

文字の内容については、人名・地名がもつとも多い。

日本では、奈良期に「国分寺」などと寺名を記した軒丸瓦があり、軒平瓦にも、中央に使用する寺名1文字を入れるものがある。また、瓦の平の部分に国分寺管下の郡名、郷名などを印したもの、寄進者の名をヘラで刻したものもあった。



「入」ヘラ書



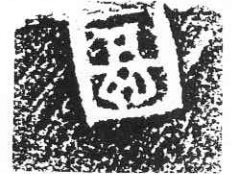
「全」押印



「全」押印



「豊」押印



「豊」押印



「入」ヘラ書



「父」押印



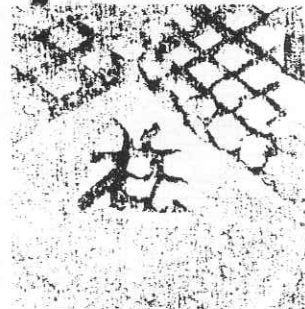
「播」押印



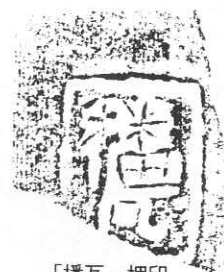
「豊」押印



「父」押印



「在」押印



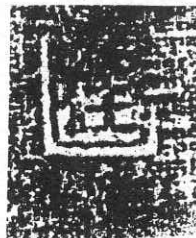
「播瓦」押印



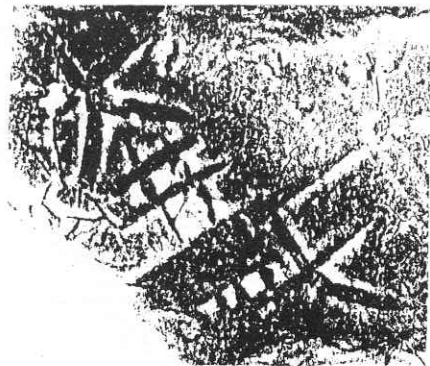
「男」押印



「在」ヘラ書



「在」押印



「大井」押印



「在」押印

古代瓦展 関連講座

「伊豆国の古代の瓦」

…伊豆国分寺を中心に…

現在開催中の「古代瓦展」に関連し、古代寺院瓦研究の第一人者である平野吾郎先生（静岡県埋蔵文化財調査研究所）に、静岡県を中心とした地域の白鳳～奈良時代の寺院瓦についてのお話を伺いました。

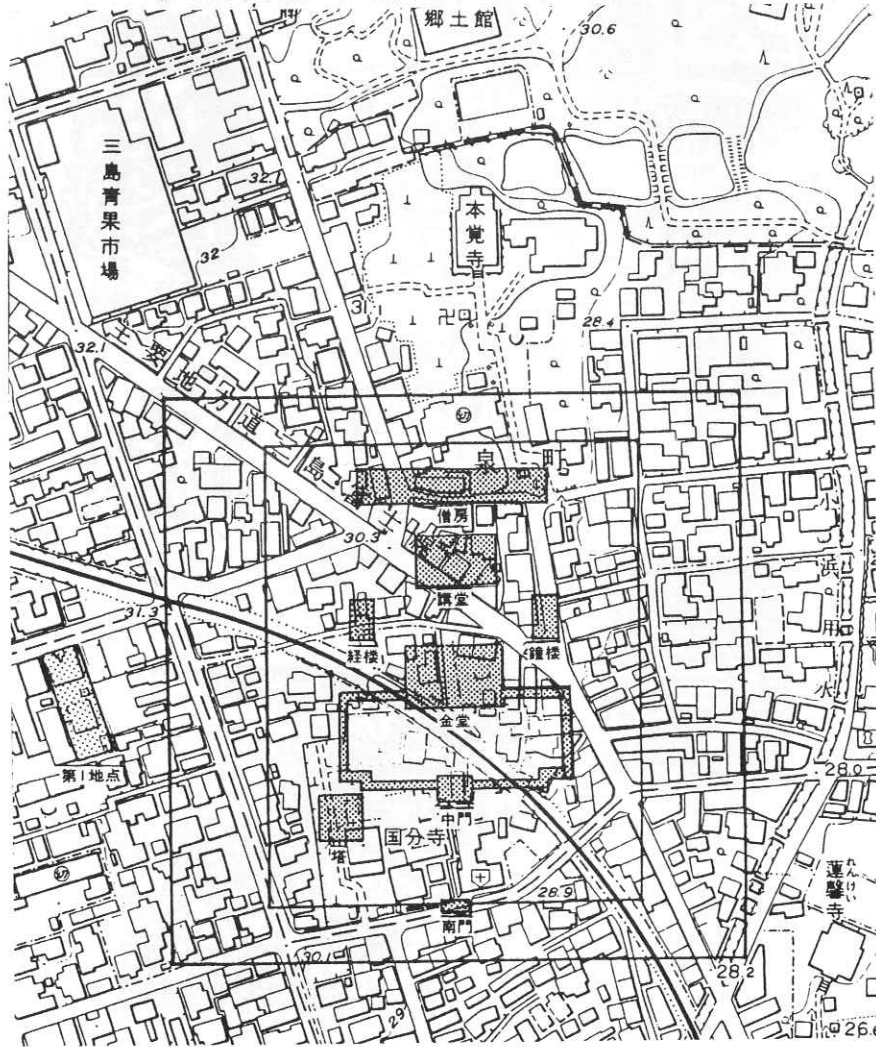
県内の古代仏教の隆盛をしのばせる瓦ですが、その紋様から「川原寺系」「山田寺系」等といった中央の大寺院との密接な関係を見てとることができます。その背景に、技術者



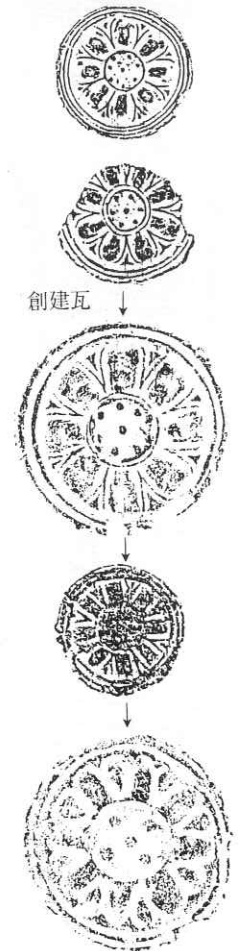
を派遣した中央貴族と、地方豪族とのつながりを指摘され、大変興味深いお話でした。

(11月23日、受講者25人)

伊豆国分寺伽藍配置図（推定）



伊豆国分寺 軒丸瓦の変遷



企画展

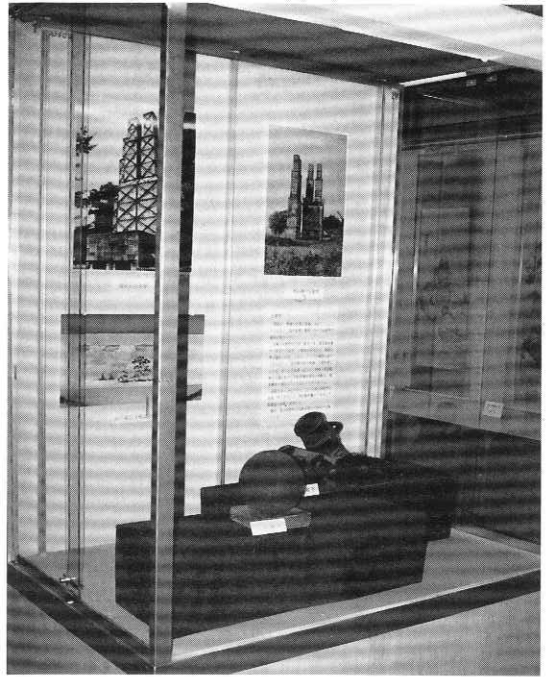
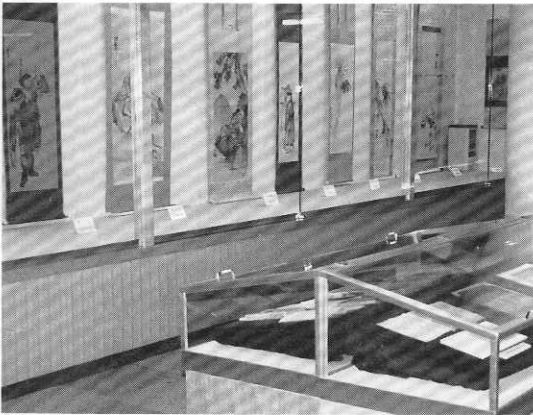
幕末の名代官

「江川太郎左衛門(坦庵)展」

報 告

郷土館のふるさとの人物シリーズ、企画展「幕末の名代官 江川太郎左衛門(坦庵)展」が終了しました。(7月19日～9月13日)

多くの方々から秘蔵の坦庵公の書・画等を提供していただきました。入館者からは「こんなに絵が上手な人だったとは知らなかった。」など、の聲が上がり文化人坦庵公の側面を改めて認識されたようです。



企画展「江川太郎左衛門(坦庵)展」

入館者数 平成4年7月19日(日)～9月13日(日)

区分	月	7月(13日)	8月(31日)	9月(13日)	合計 (57日間)
学生(小中高)		940	3,451	515	4,906
一般(個人)		1,835	4,710	1,975	8,520
団体(30人以上)	(1)	30	(5) 311	(5) 170	(11) 511
合 計		2,805	8,472	2,660	13,937

江川坦庵展関連講座

「塚原一里塚において盗難にあった 大塩平八郎建議書」

江川坦庵公研究の第一人者、仲田正之先生(三島北高教諭)を、お招きし、坦庵公のさ



まざまな側面を語っていただきました。

(8月21日、受講者32人)

幕末に起きた乱、一揆の内、最も有名なものの一つに「大塩平八郎の乱」があります。

彼の老中宛の建議書が、奇しき縁で、坦庵公の手元に入り、それを控えさせた文書が、江川文庫の中から見つかりました。仲田先生は、この文書を分析し、乱の全容を解明すると共に坦庵公の対処や、部下の動かし方を詳しく話され、名代官たる所以を納得させていただきました。随所に坦庵公の逸話が盛り込まれ、時代劇を見るような楽しい講演でした。

資料収集報告

今回もまた多くの方々から、珍しい貴重な資料をご寄贈いただきました。

特に、石井泰夫氏、花鳥信氏、安藤尊夫氏の三人からは、多量に資料提供を受けましたので、別表を作成してご報告いたします。

また、安藤尊夫氏が寄せてくれた晴れ着等の衣類は、次回の企画展「祝いごとの民俗」に展示し、たくさんの方々に見ていただく予定です。

■ 資料収集状況

採集月日	提供者 氏名	住 所	資 料 名	数
H. 4. 2. 6	岩 崎 良 子 氏	市内若松町4642-32	国民年金通帳	1
々	〃	〃	新円切換え前の通貨	16
H. 4. 5. 4	瀬 川 到 氏	市内新谷56	自転車用ライト、ほか	2
H. 4. 8. 11	日 吉 良 郎 氏	市内加茂37-8	整理ダンス	1
々	石 井 泰 夫 氏	市内南本町12-11	井戸の滑車、ほか (別表)	32
々	花 鳥 信 氏	市内中央町3-29	裁縫道具、ほか (別表)	29
H. 4. 9	安 藤 尊 夫 氏	蕨山町 中353-2	祝い着等衣類 (別表)	31

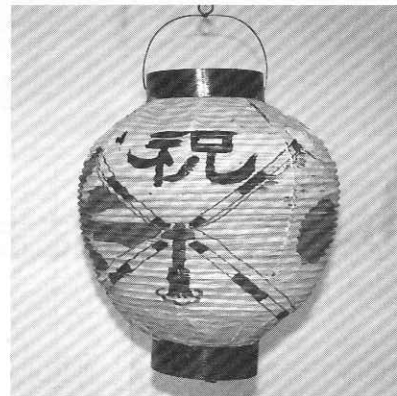


自転車用カーバイトライト

カーバイトは炭化カルシウム (カーバイド) の通称。水滴を落とすと可燃性のガスを発し、これに点火して炎をあかりとします。

カーバイトランプをともした祭りの屋台店の、むせるような匂いが懐かしい方も多いでしょう。

このあかりを自転車用ライトに使ったのは当時のアイデア商品であったことでしょう。



提 燈

竹ひごに和紙を張り、中にろうそくを灯した提燈は、懐中電灯の普及するまでは庶民の灯火用具の代表でした。

写真の提燈は、日露戦争祝勝記念の提燈行列 (明治末) に使ったという記念資料です。

■石井泰夫氏寄贈

資 料	数量	資 料	数量
井戸の滑車	1	鎌	1
押切	1	大八車車輪止めピン	1
木銃	2	鳥の水やり	1
草刈り鎌	1	のし板	1
とび口	2	五つ玉そろばん	2
めん棒	1	ミシン	1
扇風機	1	木槌	1
かご	1	アンカ	1
除毒包	2	火鉢	6
水筒	2	八反マンガ	1
棒秤	1	犁	1
棒秤・分銅	1	大八車車輪 (1組)	1
ラケット	2	マンガ	1

■花島信氏寄贈

資 料	数量
版木 (4点)	4
銭箱	1
行李	2
火薬銃砲販売所桔梗屋	1
トランク	2
提燈	複数
裁縫道具	1
柱掛	1
祝ビツ	1
提燈 (12点)	12
はけ	1
火薬店用差換判木	1
器台or墨ツボ	1
矢立	1

■安藤尊夫氏寄贈

No.	名称()	材質	特別な呼称	使用者	使用法	備 考	No.	名称()	材質	特別な呼称	使用者	使用法	備 考
1	ちゃんちゃんこ			安藤ひろみち	百一夜の祝	} 一重ね	15	着 物 (お召し)			渡辺みつ		
〃	羽織り			〃			16	帯	絹	本博多	〃	慶弔両用	
〃	着 物			〃			17	袴			尊夫氏 父	乗馬	馬乗りまばか
2	ちゃんちゃんこ	絹	本羽二重	渡辺晴正	百一夜の祝		18	〃	絹	仙台平	〃		
〃	着 物	〃	〃	〃			19	羽 織		ひめどじま	安藤為吉		
〃	下 着 (もんはぶ)	〃	紋羽二重?	〃			20	〃	絹	紹	安藤重宣		
3	丹 前	木綿		安藤尊夫の3男			21	〃	〃	〃	渡辺 久		
4	着 物		明 石			(明石ちじみ)	22	(紋 〃 付)		いつかいち	〃		
5	〃	絹	銘 仙				23	〃			安藤尊夫		
6	帯	〃	博 多				24	(紋 〃 付)	絹	黒縮緬			
7	着 物						25	着 物	〃	銘 仙	渡辺みつ		久氏夫人
8	おふりばんでん						26	羽 織		本セル	渡辺 久		
9	〃						27	着 物	絹	村山大島 (久連)			
10	(袖なし)						28	反 物	〃	縮 緬	安藤たわ		井上靖先生の叔母さん
11	羽 織	木綿	久留米餅	安藤尊夫			29	羽 織			渡辺 (久連)		水野藩地方役
12	〃	〃	〃	〃			30	〃	絹		安藤重宣		
13	帯		黒しゆす	渡辺みつ			31	着 物	〃		安藤尊夫, 重宣		
14	着 物			尊夫 3才の頃		大正 8~9年頃							

郷土館出版物のお知らせ



郷土館 行事予定

■企画展「祝いごとの民俗」

(平成5年3月中旬～同5月中旬)

三島・伊豆半島を中心に収集調査した「祝いごと」の民俗展示

(人の一生の祝いごと、農耕と祝いごと、ムラや家の祝いごと)

長谷川福太郎先生
生涯学習功労者として表彰される

長年郷土館館長を勤められた長谷川福太郎先生が、平成4年度三島市生涯学習まちづくり大会において、生涯学習功労者として表彰されました。(11月18日)



先生は、昭和57年6月まで10年間郷土館館長を勤められました。退職後、郷土館・社会教育等の各種講座の講師として活躍され、郷土の歴史を広く語り継がれた業績が認められたものです。

「浮世絵三島絵はがき(4)」

郷土館では、「浮世絵三島絵はがき(1)、(2)、(3)」に続くシリーズ4作目として、「浮世絵三島絵はがき(4)」を作成しました。

そこで絵はがきの内容を紹介しますと、

- (1)題材 浮世絵に描かれた宿場三島
(2)内容
- 1.美人東海道 三嶋駅十二 英泉
 - 2.東海道五拾三駅 名画之書分 三嶋・箱根
三嶋神社・田祭りの囃 狂斎 筆助・中村芝翫 三代豊國
 - 3.東海道十二 五十三次之内 三嶋 初代歌川広重
 - 4.東海道 三嶋 二代歌川広重 (立祥)

(3)形式 4枚1セット袋入れ

(3)頒価 100円(4枚セット)

これら4枚の絵はがきは、どれも三島の昔をしのぶ、趣ある内容です。

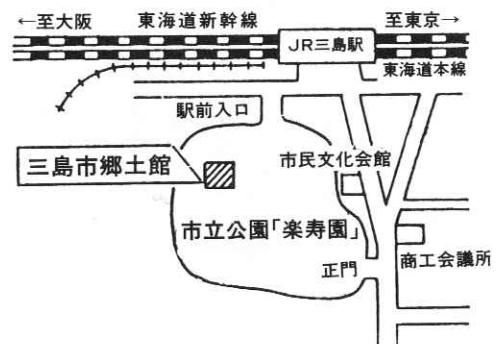
郷土館窓口にて販売中。お求め下さい。

— 利用案内 —

休館日 毎月第2月曜・12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入場無料(但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土館だより No.44

平成4年12月25日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館
住所 〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 0559-71-8228
FAX 0559-81-3730
発行 三島市教育委員会